

日本の昔の住まい

～夏を快適に過ごすための工夫は？～



住まい方を工夫することで、エアコンなどのエネルギーの消費を少なくすることができることを理解させるとともに、自分達の家庭で取り入れられる夏の暮らし方の工夫について考えさせ、実践に繋げていきます。

～夏を快適に過ごすための工夫は？～

庭の植物



壁の少ない構造

風通しのよい床下

	中3	中4	中5	中6	中1	中2	中3
社会	○地域の人口 の増減	○国境と国境の 健康・生活環境	○世界の中心の 日本	【国境】 ○世界と比べた日本の地域の特 色(資源、エネルギーと産業)	【食料】 ○農林の生活と食料の役割 (環境の保全) ○世界平和と人類の福祉の観点 (地球環境、資源、エネルギー) ○よりよい社会を目指して		
理科			○生物と環境				
技術・家庭科(環境)							○自然環境の保全と科学技術の活用
保健・体育(環境)			○健康な生活と 環境に配慮した生活の工夫				○健康な生活 と環境生活と健康

この写真は、日本の伝統的な住まいから、日本の高温多湿な夏を快適に過ごすための工夫を考察する材料として、香川県坂出市内にある古い住宅を撮影したものです。

①壁がほとんどなく、床下も風通しがとてもよい構造になっています。

②庭に、植物や樹木を植えることで、気温を下げる効果があります。

③深い軒や樹木は、強烈な日差しを遮ることができます。

「徒然草」の中でも「住まいは夏を旨とすべし」と書かれているように、昔から日本の住宅は夏の気候に考慮したつくりになっていました。田舎の民家を訪れると、真夏でも風通しがよく、家の中は冷房がなくてもひんやりと涼しく感じられます。

これは、日本の高温多湿な夏を涼しく快適に過ごすための工夫が日本の伝統的な住まいにはなされているからで、現代の住まいにも取り入れられる智恵や工夫があります。

一方、夏を考えた日本の伝統的な住まいは、すきま風もあり、冬にはとても寒いという欠点があります。

そこで、現在の住宅では、夏に涼しいという昔の伝統的な住宅の良さに加えて、冬の寒さも防ぐため、断熱性や気密性も高めたもの（例えば、二重ガラスや断熱材の使用など）となっています。

撮影：環境政策課

攝影：巢環境政策課